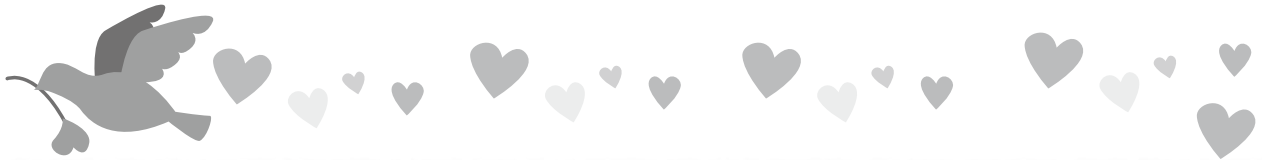




一粒の麦

ひとつぶのむぎ



笑顔あふれる仲間たち



聖書のことば

「人間の道は自分の目に正しく見える。主は心の中を測られる」

(箴言21章2節)

■ 新たな歩み ■

生活支援課長 林 裕一
ほやし ゆう いち

数年前まで、この季節になると、外を眺めては「やるか!!」と作業着に着替え、長靴を履き、草刈り機に混合油を注ぎ、エンジンをふかし、膝くらいまで伸びた雑草と格闘していました。ちょっとした息抜きにはなっていましたが、この時期の草刈りは身体に耐えませんでした。そんな中「あれっ…」草の伸びていない場所がありました。ひまわり居住棟ベランダの南側に設置してある花壇の周辺です。花壇を見ると、まだ青々としたミニトマトと紫の可愛らしい花をつけた茄子の菜園が出来ていました。菜園の管理者はショコラ班(自閉症の方の支援グループ)の数名の利用者でした。きちんとした方々なので雨の日も水やり、除草は草を抜く場所を視覚的(ビニールテープで区切り)に示し、そして、生産者の特権もぎたてをパクリ。毎日の成長を楽しんでおられました。そのうちに、他の利用者、職員も足を運び、真っ赤に熟れたトマトを食べ、集いの場となり、しばらくの間草刈りの必要がありませんでした。その時に気づいたのです「人の行き来があるから、草が伸びんちゃ」と。くっきりと花壇の周りには道が出来ていました。

元プロ野球選手、読売巨人軍のエース桑田真澄氏は、右ひじ怪我からの復活に向け、ジャイアンツ球場で外野ポール間をひたすらジョギングしていたそうです。約2年間続きジャイアンツ球場

のレフトポールからライトポールにかけて、芝生の生えていない一本道が出来ていたそうです。俗にいう「桑田ロード」です。不安をかき消す為に必死に走っていたのでしょうか。新しい桑田真澄を作り出す為に道を切り開いていたのでしょうか。信じて歩み続ければ必ず道は拓けるとプロ野球選手として先駆的な役割も担っていたのでしょうか。そして、683日ぶりのマウンド。ピッチングプレートに右ひじを付け、祈る姿は鮮明に記憶に残っています。見事に復活し、皆さんもご存じの通りメジャーリーグへ、今も解説者等として球界で活躍されています。

平成28年、当法人も新生エデンの園に向け中長期計画に基づく歩みを始めました。地域福祉支援センター、新グループホームを国富町竹田地区に建設。秋から放課後等デイサービスなどの児童の事業を行います。桑田真澄氏もそうだったと思います。新たな物への不安、未知への不安。我々も不安がないかといえは嘘になります。しかし、新たな歩みを信じ、職員一丸となり道を作っていかなければならないと思っています。そして、地域で必要とされる、社会福祉法人エデンの園となるために。

ちなみに、今年の花壇菜園には、真っ赤なイチゴが実っていました。

